文章再読過程における比喩理解の効果

不完全文、逆転比喩文との比較からの検討
○平知宏
(大阪市立大学・大学教育研究センター)
比喩、文章読解、再読過程

The effect of metaphor comprehension on re-reading process.
Tomohiro TAIRA
(Center for Research and Development of Higher Education, Osaka City Univ.)
Key Words: metapho, sentence comprehension, re-reading process

目 的

物語やエッセイなどのある一定以上の文から構成される文章の読解において、比喩の呈示が文の理解速度に影響を与えたりすることが、これまでの研究で示されている。平・楠見(2008)は、文章再読課題を用い、比喩を呈示せずに文章を初めて読ませた場合と、同一の文章を再読させた時に比喩を呈示した場合のそれぞれ読解過程を比較することで、文章読解に対する比喩の効果を検討しようと試みた。しかし、平・楠見(2008)の実験では、再読時に比喩を呈示する条件(比喩文条件)に対する比較条件として、比喩の出ない状態で文章を再読させるという条件(文欠損条件)を設けている。この場合、比喩自体ではなく、文が新規に呈示されたことが読解過程に影響を与えたという解釈が成立する。また、単純に新規に呈示された文内の単語情報のみが利用され、読解過程に影響を与えたという解釈も成立する。

本研究では平・楠見(2008)の以上2つの問題点を踏まえ、再読時に比喩を呈示する条件に対する比較条件として、新たに比喩の喩辞のみが欠損した状態で呈示される条件(不完全文条件)、及び比喩の主題と喩辞が逆転した状態で呈示される条件(逆転比喩条件)の2つを設け、改めて比喩が文章の再読過程に与える影響について検討することを目的とした。

方 法

参加者 日本語を母語とする48名(男性36名、女性12名、平均39.9歳)が参加した。うち24名ずつが不完全文条件および逆転比喩条件に参加した。

材料 平・楠見(2008)で用いた、10種類の文章材料用いられ、文章は全10文で構成されていた。文章は5文目が比喩の含まれた文であり、5文目がなくても全体の意味は通るのであった。

手続き 実験は文章読解課題と文章再生課題の2課題で構成された。文章読解課題は初読フェイズと再読フェイズにより構成された。文章読解課題では、PCのディスプレイ上に実験材料が一文ずつ呈示され、スペースキーを押すことで文が消え、次の文が呈示されるようプログラムを行った。実験参加者に対し、呈示された文を“自分のペースで”読むよう教示した。初読フェイズでは、材料の第5文目に無意味な文字列(XXX)が表示され、参加者に対し“XXXにどんな文が当てはまるかを自由に想像しながら読むよう”教示した。実験材料10文章を全て読み終えた後に、偶発課題として参加者に対し同じ文章をもう一度読むよう求めた(再読フェイズ)。再読フェイズでは、参加者に対し初読フェイズと同様自分のペースで文章を読むよう求めた。ただし再読フェイズでは、材料の第5文目が比喩の主題のみが呈示された文(不完全文条件：人生はXXX)、もしくは主題と喩辞が逆転した文(逆転比喩条件：ギャンブルは人生のようだ)が呈示された。

文章再生課題では、参加者に材料文章が印刷された冊子を渡した。材料文章は、第5・6・10文目が空欄になっており、

参加者に空欄に当てはまる文を再生するよう求めた。

結 果

6文目以降の各文の読解時間を主な分析対象とした。初読時・再読時の平均文読解時間は表1の通りとなった。また、再読時の読解時間を従属変数、初読時の読解時間、文章内での文の順番、文の文字数、文の種類を目的変数とした重回帰分析を行った(表2)。文の種類は、3人のコーダーにより比喩の類似性を表す文かどうか(S: 類似表明文, $\alpha=.88$)、主題の意味を明確にする文かどうか(C: 意味明確文, $\alpha=.80$)、主題の重要な情報を伝える文かどうか(T: 主題情報文, $\alpha=.72$)を判定し、2人以上が一致したものを該当する文の種類とした。これらの結果から、比喩は特に主題の意味や重要な情報を表す文に対し、読解時間を要することが示唆された。

表1. 初読・再読時における平均文読解時間

条件	本実験		参考：平・楠見(2008)	
	不完全文	逆転比喩	文欠損	比喩文
初読	3094 (1006)	2948 (908)	2634 (815)	3156 (898)
再読	2340 (1139)	2221 (1223)	2102 (801)	2406 (852)

Notes: ms (SD)

表2. 重回帰分析結果：標準化回帰係数 ($N=90$)

	本実験		参考：平・楠見(2008)	
	不完全文	逆転比喩	文欠損	比喩文
初読	.59***	.54***	.61***	.63***
文順番	-.19*	-.32***	-.30**	-.24**
文字数	.16	.15	.16	.04
文の種類				
SCT	.12	.25*	.10	.20*
ST	.05	-.03	-.01	-.06
CT	.02	.11	-.04	.14*
S	.02	.04	.06	-.02
C	-.01	.10	.03	.09
T	.04	.12+	-.05	.02
調整済 R ²	.49	.62	.57	.65

考 察

以上の結果から、比喩が特定の文の種類に対する注意を深める効果があることが示唆された。ただし、一部の効果(例：比喩の類似情報に関連する文)については、逆転比喩条件とも重複するものであることも示された。今後はこれらの効果を詳細に検討すること、および比喩それ自体の属性(親しみやすさなど)も併せて検討することも重要である。

引用文献

平知宏・楠見孝.(2008). 比喩の親しみやすさと解釈多様性の構造. 日本認知科学会第25回大会発表論文集, 190-193.